

INVITATION

Ehime University Hospital [愛媛大学医学部附属病院広報誌]

VOL
43

2016

愛媛県全域の医療体制の向上を目指して

DOCTOR'S VOICE 01 新専門医制度で若手医師を愛媛に呼び込む

DOCTOR'S VOICE 02 大学がマザーホスピタルとなり、県下の産婦人科医療を守る

DOCTOR'S VOICE 03 市立宇和島病院院长に聞く



謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

当院は引き続き地域に密着した医療を実施し、患者さんの幸福と地域社会への貢献を目指していきます。本年もご支援の程宜しくお願い申し上げます。

愛媛大学医学部附属病院長 三浦 裕正

新専門医構想

新専門医制度で若手医師を愛媛に呼び込む

医学系研究科医学専攻長 高田泰次

2017年度から新しい専門医制度がスタートします。これまでの専門医制度は、各学会が独自に運営していたため、学会ごとに認定の基準が異なり、患者さんにとっては分かりにくい制度となっていました。そこで、2014年に「日本専門医機構」が発足し、学会ごとにバラバラだった制度を標準化し、第三者機関による認定・更新を行う制度へ変わることになりました。

新しい制度では、大学卒業後に2年間の初期臨床研修を受けたのち、19ある基本診療領域の専門医のいずれかを取得する必要があります。専門医研修の期間は3年以上で、認定にあたって、知識だけではなく診療実績も問われます。従って、新たな専門医とは、それぞれの診療領域で適切な教育を受け、十分な知識と経験を兼ね備え、患者さんからも信頼される質の高い標準的な医療を提供できる医師と定義されます。また、新制度では研修施設ごとに、認定を受ける専攻医の受入数が規定されます。これにより、現在問題となっている地域間、診療科間における医師の偏在の解消に繋がることが期待されています。

現在、当院では新制度の研修基幹施設となるべく、研修プログラムの作成に取り組んでいます。新制度で掲げられた19の基本診療領域の医師でワーキンググループを立ち上げ、各科が連携しながら準備を進めています。新専門医の認定を受けるためには、当院だけではなく、地域の病院でも研修を受ける必要があるので、県内の中核病院と協力しながら、研修施設群の構築を進めています。今後、研修プログラムと研修施設群が日本専門医機構に認可され、卒後2年目の医師にむけて募集要項を開示し、2016年秋頃から採用活動を開始する予定です。

地方の病院にとって、新専門医制度は若手医師を呼び込むチャンスです。地域医療が崩壊した原因のひとつは、若手医師が都市部に集中してしまったことにあります。当院で研修を受けると、医師としてどのような臨床・研究能力を身につけることができるのか、どのようなキャリアプランを立てることができるかを示すことにより、愛媛に医師を集めることができます。まずは魅力ある研修プログラムをつくり、しっかりと若手医師にアピールする。そして研修においては、一人ひとりをケアしながら全人的にバックアップし、多くの優秀な医師を育てていきたいと思います。



PROFILE

たかだやすつぐ ◎京都市出身。1983年京都大学医学部卒業。筑波大学消化器外科、京都大学肝胆脾・移植外科などを経て2009年愛媛大学肝胆脾・乳腺外科教授就任。2015年4月から現職。専門は肝胆脾領域の癌治療、肝移植。



ワーキンググループの様子

愛媛大学専門研修プログラム連絡協議会

病院長



新任教授紹介

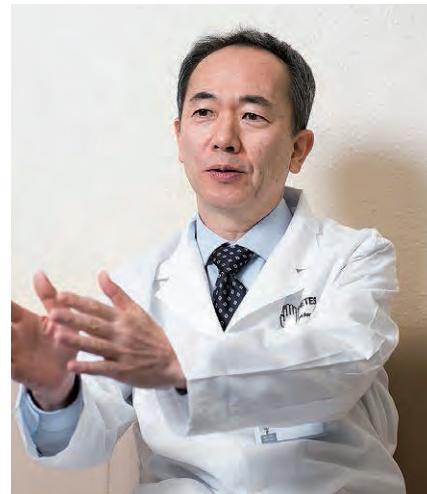
大学がマザーホスピタルとなり、県下の産婦人科医療を守る

産科婦人科学講座教授 杉山 隆

現在、産婦人科は、大学のみならず県下の関連施設においても深刻なマンパワー不足に直面しています。大学病院として入局者を増やすため、教室員や関連施設の先生に協力いただきながら最大限努力するとともに、県下の関連施設間の連携強化を行うことが、喫緊の課題かつ重要な役割であると考えています。

産婦人科の主領域である、周産期・生殖・腫瘍については、周産期医療の構築を基盤とした産婦人科医療の維持・発展を図ります。周産期医療については、従来どおり母体合併症の管理や胎児異常症例を中心に診療します。不妊治療については、4~5年後の再開を目指し、県内外の不妊センターとの施設間連携を図る準備を進めています。婦人科腫瘍については、手術の低侵襲化を図りつつ、患者さんのQOLを少しでも高めていきたいと思います。また、臨床・研究面についても、他施設や基礎講座等の連携を取りながら、今後も積極的に取り組んでまいります。

あらゆるライフステージの女性を支援すべく、種々領域のサブスペシャリティを配備し、大学として果たすべき教育体制を構築するとともに、チーム医療に全力を注ぎます。また、関連施設との連携を活かし、若手医師育成を図るとともに県全体の産婦人科医療の維持・発展に努めてまいります。



PROFILE

すぎやまたかし ◎1988年関西医科大学卒業。三重大学、東北大学を経て2015年9月から現職。専門は周産期医学。連携を図る過程で多くの人の出会いが楽しみ。

FROM VIP DOCTOR

愛媛大学医学部附属病院に期待すること『VIP DOCTOR に聞く』

愛媛のトップランナーとして、県全体を牽引してほしい

市立宇和島病院院長 梶原伸介

愛媛大学医学部附属病院に期待することは、県内で活躍する医療人の育成です。2017年からは、地域医療に配慮した新しい専門医制度も始まります。この機会に若い人が集まるような、更に魅力ある大学となってもらいたい、医療人を育ててほしいと思います。そして、県下の病院へ医師を派遣し、深刻な医師不足の解消に取り組んでいただくようお願いします。また、我々のような一般病院ではできない、希少な症例の治療や、移植などの手術への対応も期待します。

当院は南予地方における唯一の基幹病院です。住民の皆さんのが安心して生活できるように、南予で検査や手術が受けられる体制を確保していますが、限られた病院資源の中では対応できないことがあります。その部分については附属病院の協力を得て、連携し、解決していきたいと思います。

附属病院はスタッフの職種も多様で人数も多く、その中でも看護のレベルも高く、ボランティアの方々の活動も盛んで非常に活力があると感じています。

今後も医療のトップランナーとして、県全体の医療レベルを維持向上する原動力であることは間違いないありません。当院も各医療機関と連携し、役割分担を行い、南予地方の急性期医療を支えていきます。



PROFILE

かじわらしんすけ ◎1976年徳島大学医学部卒業。同年愛媛大学第1外科入局。多くの研修病院を経て、1984年当市立宇和島病院外科に採用。手術に明け暮れ、外科科長、診療部長を経て2000年より現職。

愛媛大学医学部附属病院 トピックス

お気軽にご相談ください

人工関節センターがグッドデザイン賞を授賞



当センターは、高精度かつ安全な人工関節手術の提供、次世代の高機能人工関節のデザイン開発、各部門との連携を円滑にするシステム作り、患者さんへより正確な医療情報を伝える工夫などが評価され、グッドデザイン賞を受賞し、11月4日(水)に表彰されました。審査委員に、人工関節において、臨床・研究開発・手術教育・オステオサイエンスの4部門を連携させた組織はユニークであり、また組織発足以来着実に実績を積んでいると評価されました。

総務課企画・広報チーム ☎089-960-5943

地域医療再生セミナーを実施



平成27年11月13日(金)、県内各地域の医療体制の現状と展望、地域医療における機能分担や医療連携等について、関係者の理解を深めることを目的とした「第5回地域医療再生セミナー」を開催しました。セミナーは、地域医療に関わる講座の担当教授等から、各講座の現状や取組みについての講演がありました。今回、愛媛県及び県内各市町の行政機関、医師会、各関連病院等から約110人の参加があり、活発な意見交換が行われました。

地域医療支援センター ☎089-960-5990

国立大学で初めて 「羊膜バンク」を設立

当院は、日本組織移植学会から羊膜取扱い施設(カテゴリーI)として認定を受け、国立大学で初の「羊膜バンク」を設立しました。羊膜とは、妊娠の子宮内で胎児を包み、羊水を保持する薄い膜です。羊膜は、移植しても拒絶反応が起りにくく、また炎症反応を抑えて、傷の修復を促進することが認められています。この為、羊膜は角膜や皮膚等の再生医療に幅広く応用されています。これから当院で、羊膜の採取、保存、移植だけでなく、他の医療機関に羊膜の斡旋ができるようになりました。今後も当院は、羊膜移植の安全な実施に向けた体制の整備を進めています。

総務課企画・広報チーム
☎089-960-5943

クリスマス コンサートを開催



平成27年12月16日(水)、クリスマスコンサートを開催しました。このコンサートは「がん患者・家族サロンあいほっと」が主催で、がん患者やそのご家族に楽しいひとときを過ごしてもらうことを目的として毎年開催しています。今年は、ジャズボーカリストの大石玲子氏による歌とジャズ演奏の披露があり、多くの方々に楽しい時間を過ごしていただきました。

医療サービス課
☎089-960-5099

連携病院の皆様

平成28年3月5日(土) 松山全日空ホテルにて 連携病院長会議開催



第28回連携病院長会議を上記日程にて開催致します。
詳細につきましては、当院ホームページをご覧ください。

編集後記

新年明けましておめでとうございます。本年も当院をよろしくお願い申し上げます。表紙は毎年恒例となっている仕事始め式での集合写真です。

さて、本号では、新専門医制度に対する当院の取組み、9月から新たに教授となった杉山教授の紹介、また、当院に期待することについて宇和島市立宇和島病院樋原伸介院長からお話を伺っています。是非ご一読ください。

当院は、引き続き地域の人々から愛され、信頼される病院運営に取組んで行きます。ご支援の程よろしくお願い申し上げます。

広報委員会委員長 高田清式

◎表紙
仕事始め式にて



愛媛大学医学部附属病院

〒791-0295 愛媛県東温市志津川 ☎089-964-5111(代)
ホームページ <http://www.hsp.ehime-u.ac.jp/>